5　「銀寄」分別出荷による「北摂栗」ブランド化への取組

歴史ある北摂栗

北摂地方におけるクリ栽培は、平安時代中期の文献「延喜式」にも記述があり、丹波地方と並び1,000年以上の歴史を持つ。品種も在来種が多く、特に丹波栗の主力品種である「銀寄」は、北摂地方（大阪府能勢町）が原産である。

このように、古い歴史を持つ北摂地方のクリであるが、現在は丹波栗の陰に隠れ、その知名度は決して高いとはいえない。そこで、歴史ある北摂栗を見直し、評価を高めるための取組を開始した。

北摂栗振興の取組

県内の北摂地方でクリ産地がある市町には、それぞれ生産者組織があり、独自で活動していた。北摂栗振興のため、2004年度から、3市町が共同で出荷する体制をとり、出荷先も高単価で販売できる直売を主体にした。翌年からは、「北摂栗生産者連絡協議会」が発足し、本格的に共同出荷が開始された。

図1　北摂地方原産の優良品種「銀寄」

銀寄の分別出荷の取組

消費者に人気の高い良食味品種「銀寄」を分別して販売する取組は、大正時代から一部地域で始まっており、「銀寄」に対する消費者の知名度は高かった。やがて地元で直売されるようになると、品種が混ざったものと比較して倍近い単価で販売された。共同出荷に当たり、「銀寄」を北摂栗の主力品種として位置づけ、品種名を前面に出してブランド化を図ることにし、すべての地域で生産者が「銀寄」を分別して出荷してもらうことになった。手間はかかるが、販売単価が高くなり、メリットは大きい。

品種名をつける以上、異品種の混入があってはならないが、クリは単独の品種では受粉しにくいため、複数の品種を混植する必要がある。実際のクリ園では、様々な品種が混植されており、その中から「銀寄」の果実を分別するのは非常に手間がかかる。そこで、あらかじめ「銀寄」の樹に目印を付けて収穫時の目安とし、最終的には果実を見分けながら、確実に分別するよう、研修会を開催した。

産地の変化

協議会発足当初掲げた「銀寄」分別率40%以上という目標は、現在ほぼクリアしている。生産者にも「クリはちゃんとつくれば儲かる」という意識が芽生えてきており、産地全体が活性化してきている。今後も、大粒の「銀寄」を北摂栗のメインとして、ブランド化を進めていきたい。

木谷　徹（宝塚農業改良普及センター）
（問い合わせ先　電話：0797-86-7661）

図2　銀寄目慣らし会の様子